

## 1. 資金調達額と充当・非充当状況

当社が2021年5月6日に発行した行使価額修正条項付新株予約権(サステナブル FITs)は同年7月21日をもって行使が全て完了いたしました。

資金調達額と充当状況は表1の通りです。

表1 資金調達額と充当・非充当状況

具体的な使途	内容	目的	調達額 (億円)	充当額 (億円)	非充当額 (億円)
株式又は 持分取得 (子会社 化)のため の資金	Kardia社	直接販売化の推進 イタリアの既存販売代理店の取り込み	48	37	11
	A-Traction社 (現:朝日サージ カルロボティック 株)	ロボティクス化の推進 ロボティクス技術と当社医療機器のノウハウ の融合による医療ロボットの実現	35	27	8
	Pathways Medical 社	スマート治療の推進 ガイドワイヤーなどの表面に形成が可能な 電気配線に関する独自の技術の取り 込み	32	28	4
	Rev. 1 Engineering社	米国のOEM事業の拡大 元大手医療機器メーカー出身のエンジニアが 設立したインターベンションを中心とする医療 機器の設計開発受託事業の取り込み	29	29	-
研究開発 体制拡充 のための 設備投資 資金	グローバル本社・ R&Dセンター内の 研究開発棟の 建設	新領域分野の研究開発強化 コロナ禍における研究開発の就業環境整備 BCP視点の緊急時生産機能の整備 モノづくり精神の国内回帰	50	-	50
	東北R&Dセンター 内の研究開発 棟の建設 大阪R&Dセンター 土地取得	精密加工技術開発の強化	33	16	17
将来M&A などのため の資金	-	中長期的な持続的成長	14	-	14
合計			241	137	104

## 2. 創出されたインパクトの状況

2022年6月期における当社の取り組みと創出されたインパクトの状況は表2、表3の通りです。

表2 対象事業が創出するインパクト

指標分類	対象事業	指標の内容	単位	本調達時の見込み または 実績値	備考	2022年 6月期 実績値
アウトプット／アウトカム	技術ラインナップの拡充	新規領域製品 (注)の売上高	売上高	未定	-	-
		既存メディカルブランド品の 新アイテム数	アイテム数	4.6 アイテム	2016～20 年度の平均実績	2 アイテム
	グローバルでの 販路拡大	OEM製品の売上 高の伸び率	売上高の 伸び率 (%)	110%	2016～20 年度の平均実績	114.5%
	研究棟の増築・ 研究設備の増 強	特許申請数の 変化	特許申請 数(件)	132件	2016～20 年度の平均実績	255件
インパクト	-	SDGsへの貢献 (表3を参照)	-	-	-	表3を参照

表3 当社の事業を通じたSDGsへの貢献意欲

目標	ターゲット	左記と関連する理由	2022年6月期の取り組み
 <p>3 すべての人に 健康と福祉を</p>	<p>(3.8) 全ての人々に対する財政リスクからの保護、質の高い基礎的な保健サービスへのアクセス及び安全で効果的かつ質が高く安価な必須医薬品とワクチンへのアクセスを含む、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)を達成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術ラインナップを拡充することにより、病院によりよい製品を提供することが可能となる。</li> <li>・手術ロボットの導入により、手術助手を務める医療従事者数が削減され、他の医療サービスの充実による病院のサービスの質の向上が期待される。また、手術数を増加させることが可能となり、</li> </ul>	<p>末梢血管内治療に用いる「エコーガイド」ロボットの認可を2021年9月に取得致しました。</p> <p>手術における技師の負担の軽減と治療の選択肢の拡大に寄与します。</p>

目標	ターゲット	左記と関連する理由	2022年6月期の取り組み
		<p>受入れ患者数の増加や病院の経営改善につながる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>改良された製品を提供することにより検査及び治療にかかる時間が削減され、患者の肉体的負担も軽減される。</li> </ul>	
	<p>(9.5)2030年までにイノベーションを促進させることや100万人当たりの研究開発従事者数を大幅に増加させ、また官民研究開発の支出を拡大させるなど、開発途上国をはじめとする全ての国々の産業セクターにおける科学研究を促進し、技術能力を向上させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究体制の充実が新規分野への進出につながり、新たな医療技術の研究が進む。</li> </ul>	<p>2022年2月に「東京 R&amp;D センター」を開設致しました。</p> <p>従来のガイドワイヤー・カテーテルを中心とした開発機能の強化に加え、スマート医療（注）・医療ロボティクスなどへと繋がる先進的技術の開発拠点として、また当社グループにおける東京地区での研究開発拠点として、医療機器の開発力向上に大きく寄与することができるものと考えております。</p>

(注)スマートガイドワイヤーなど、従来製品に対して先進的な機能を付加した医療機器を用いて行う医療の総称。

以上